

中国語の後置修飾構造について

On the Head-Modifier Structure in Chinese

伊藤 大輔
Daisuke ITO

Keywords : head-modifier structure, head, modifier, irrealis

キーワード : 後置修飾構造、主要部、修飾語、非現実

0. はじめに

現代中国語において、形式的特性より一般に連動構造とされることが多いV1+N+V2¹⁾という構成素列は、意味的特性に基づいていくつかの類型に下位分類することが可能である²⁾。そうした諸類型のひとつとして、「主要部であるNをV2が修飾することによりN+V2が構成素をなす」と解釈し得る、あるいは解釈せざるを得ないパターンがある。たとえば次のような例である。

- (1) a. 有饭吃〔食う飯がある〕³⁾
b. 缺饭吃〔食う飯に事欠く〕

こうした例は既にいくつかの研究において言及されているが、別の種類のV1+N+V2と比較して相対的に扱いが小さく、挙げられた実例も限られた範囲に止まっている。小論は、そのような例に着目し、従来取り上げられてこなかった実例を挙げつつそれらの特徴について記述することを目的とする。

ここで、(1)に代表されるパターンにおけるN+V2を、NとV2の関係に着目して後置修飾構造⁴⁾と名付けることにする。以下、記述の便を図り、V1+N+V2のうちN+V2が後置修飾構造をなすものをV1+[N+V2]と表記する。

1. V1+N+V2の2類型

杉村・木村訳 1995:219-220は、朱德熙 1982:164が“连谓结构”の代表的パターンであるV1+N+V2の実例として挙げた諸例に、それぞれ〈 〉内のような日本語訳を施している。

- (2) a. 大家都有饭吃, 有衣服穿, 有房子住 <みんなには食べる飯があり、着る服があり、住む家がある>
 b. 他成天没事干 <彼は一日中やる事がない>
 c. 小耗子偷油吃 <こねずみが油を盗んで食べた>
 d. 我去买包烟抽 <タバコを一箱買ってきて吸おう>
 e. 你去借份报来看 <新聞を一部借りてきて読みなさい>
 f. 他打算自己盖几间房住 <彼は自分で幾間かの家を建てて住むつもりだ>

(下線は引用者)

日本語訳に注目すると、訳者のV1+N+V2に対する捉え方が(2ab)と(2c-f)の間で大きく異なっていることが目を引く。(2ab)は「V2するべきNがある/ない(V1)」という訳になっており、一見まるでV2がNの修飾語であるかのように捉えられている(すなわちN+V2が小論における後置修飾構造に該当するものと捉えられている)ことが窺われるが、一方(2c-f)は概ね「NをV1したのちにV2する」という訳になっており、そこでV2はNに付随するものではなく独立したものと捉えられている。これら2通りの訳の決定的な違いは、前者がV2の表す動作行為が実際に行われることを含意せず、後者はそれを含意するという点である。(2a)の訳のように「食べる飯がある」と言った場合、それは「食べる」という行為が実際に誰かによってなされるか否かについて何も明示的に述べていない。それとは対照的に、(2c)のように「油を盗んで食べた」と言えば、特定の主体(ここでは「こねずみ」)による「食べる」という行為の遂行を明言したことになる。

ここで形式面に着目すると、(2)のすべての例がV1+N+V2という構成素列を含む点において共通することに疑問の余地はなく、(2ab)と(2c-f)の二者を隔てる差異は、V1が“有”(およびその打消の“没”)であるか否かのみである。では、V1+N+V2のうち後置修飾構造を含むV1+[N+V2]となるのはV1が“有”からなるものに限られるのであろうか。

その答えは、いくつかの先行研究によれば否である。まず、王力 1985は“次品”(修飾語)が“首品”(主要部)の後ろに置かれた例として以下を挙げている。

- (3) a. 所以我不得空儿来请老太太的安。[それで私は奥様にご挨拶に何う時間がなかったのです。]
 b. 再想法儿打听东府里的事。[なんとか東府の様子を何う方法を考えましょう。]

(以上王力 1985/2014:117-118、下線は引用者)

また、荒川 2003も「後ろから前を修飾する」例として以下を挙げる。

- (4) a. 我找不到事做。<わたしはする仕事が見つからない。>
 b. 我一直都找不出一句合适的话来形容那种感觉。<わたしはその気持ちを形容する

適当な言葉をずっと見つけられない。)

(以上荒川 2003:54、日本語訳は原文、下線は引用者)

さらに、後置修飾であると明言しているわけではないが、Li and Thompson 1981 (以下 L&T) は以下の諸例の V2 に当たる部分を非現実 (irrealis) とする。

- (5) a. 我们种那种菜吃。[我々は食べられる種類の野菜を植える。]
 b. 我找学生教。[私は教えるべき学生を探している。]
 c. 她/他买那本书给你看。[彼女/彼はあなたに読ませるべき本を買う。]
 d. 他们需要夹子夹核桃。[彼らはくるみを割るためのヤットコ (くるみ割り) を必要としている。]

(以上 L&T:618-620、下線は引用者)

原文による (5a-d) の英語訳をそれぞれ (6a-d) に挙げる。

- (6) a. We raise that kind of vegetable to eat.
 b. I'm looking for students to teach.
 c. S/He is buying that book for you to read.
 d. They need pliers with which to crack the walnuts.

(以上 L&T:618-620)

L&T は、(5a-d) について修飾という概念は一切持ち出していないが、非現実、すなわち実際に行われたのではなく潜在的に行われる可能性のある動作行為を表す V2 を修飾語と捉えていることが (6) より窺われる (V2 はいずれも不定詞となっている)。

张伯江 2000 にも L&T と同様の主張が見られる。そこでは、V1+N+V2 のうち V2 の表す動作行為が非現実である例として、以下が挙げられている。

- (7) a. 有饭吃 [食う飯がある]
 b. 没事干 [することがない]
 c. 偷油吃 [食べる (ための/に) 油を盗む]
 d. 买包烟抽 [吸う (ための/に) タバコを買う]
 e. 借份报看 [読む (ための/に) 新聞を一部借りてくる]
 f. 盖几间房住 [住む (ための/に) 家を何軒か建てる]

(以上张伯江 2000:135)

そうした主張の根拠としては、「するに値する」という意味を表す“可”や目的を表すマーカーである“来/去”がV2の前に挿入可能であることが指摘されている。

- (8) a. 有饭可吃 [食うべき飯がある]
 b. 没事可干 [するべきことがない]
 c. 偷油来吃 [食べるための/に油を盗む]
 d. 买包烟来抽 [吸うための/にタバコを買う]
 e. 借份报来看 [読むための/に新聞を一部借りてくる]
 f. 盖几间房去住 [住むための/に家を何軒か建てる]

(以上張伯江 2000:135)

ここで、(7a-f) がそれぞれ本節冒頭で挙げた (2a-f) の一部分である点に注目されたい。以上の張伯江 2000 の指摘に従えば、杉村・木村訳 1995 による (2c-f) の日本語訳は適当でないということになる。たとえば (2c) “偷油吃” の日本語訳は「油を盗んで食べた」となっているが、この訳では“吃”が現実に行われたという意味になってしまう。

以上、後置修飾構造を含む V1+ [N+V2] が成立するのは V1 が“有”である場合に限られないという先行研究による指摘を概観した。以下、第 2 節では V1+N+V2 のうち V1 が“有”である例を V1+ [N+V2] と認める妥当性について改めて確認する。続く第 3 節では、V1 が“有”以外の動詞からなる V1+ [N+V2] に議論の対象を移すことにする。

2. V1 が“有”である例

王力 1985 の挙げる“次品”が“首品”の後ろに置かれた例には、前節で挙げた例だけでなく以下のような V1+N+V2 の V1 に動詞“有”が用いられた例も含まれている。

- (9) a. 你可有办法办这件事么? [しかしこのことをやる方法があなたにありますか?]
 b. 我有本事叫凤丫头弄出来咱们吃。[私には鳳ちゃんに私たちの食べる分を作らせるだけの力量があります。]
 c. 那里有闲工夫打听这个事? [そんなことを聞いている暇がどこにありますか。]

(以上王力 1985/2014:117、下線は引用者)

類似の指摘は荒川 2003 にも見られ、「中国語は基本的に前から後ろを修飾する言語」であるとしつつ、以下のような「“有”をもつ連動式」に限っては「後から前を修飾していると考えざるをえません」としている (荒川 2003:54)。

- (10) a. 我们还有很多事要做。〈わたしたちはまだたくさんすることがある。〉
 b. 我有几个问题想问你。〈わたしは君に聞きたいことがいくつかある。〉

(以上荒川 2003:54、日本語訳は原文、下線は引用者)

(9) の例は、意味的に見ていずれも「V2が行われるか否か」よりも「(V2が行われる前提となる) Nがあるか否か」が焦点になっていると考えられるため、「V2する (ための) Nがある」と訳すのが適当である。また(10) の例は、V2が“要”“想”という助動詞によって構成されているため、V2の表す動作行為は必然的に非現実でしかあり得ない。以上を考慮すると、(9) および(10) はいずれも V1+ [N+V2] の例として差支えない。

一方、否定形の例はそもそも V1+ [N+V2] とする以外の解釈が困難である。

- (11) a. 没那福气穿就罢了。〔(羽織を) 着るだけの運がないならそれだけのことです。〕

(王力 1985/2014:117、下線は引用者)

- b. 她听了没有话说。〈彼女はそれを聞いて言う言葉がなかった。〉

(荒川 2003:54、日本語訳は原文、下線は引用者)

“有” (V1) + N+V2 には一般に「V2の遂行にNの存在が不可欠である」という含みがあり、そのNが存在しない状況においてV2の動作行為が現実遂行されることは必然的にあり得ない。“没有话说”は「言うべきことはないが何か言う」という意味にはなり得ない。(9) および(10) の“有” (V1) + N+V2 についても“没有办法办这件事”“没有事做”のような対応する否定形が存在する以上、肯定形の場合と否定形の場合を統一的に捉えるという観点からも、“有” (V1) + N+V2 を V1+ [N+V2] と捉えるのは理に適うと言える。

ただし、そうした処理に疑問を投げかける問題がひとつある。次の例は果たして V1+ [N+V2] と捉えるのが妥当であろうか。

- (12) 我有一个弟弟被特务杀了〔私にはスパイに殺された弟がひとりいる〕

(朱德熙 1982:169、下線は引用者)

これらの例において、V2の表す内容は紛れもない現実である。ここまでの議論において、V1+N+V2 を V1+ [N+V2] と認定するか否かの判断にはV2が非現実であるか否かという要素が決定的に関与していた。その原則を維持して(12) を V1+ [N+V2] から除外するべきであろうか。それとも、これらは例外として扱うべきであろうか。

この問題に関しては、袁毓林他 2009による以下の指摘が参考になる。

- (13) a. 小王有一台电脑出了毛病。〔王さんのパソコンのうち1台が故障した。〕

b. 这台车有一个轮胎破了。〔この車はタイヤのひとつがパンクしている。〕

(以上袁毓林他 2009:302、下線は引用者)

袁毓林他 2009によれば、(13)の各例は“有”を“的”に置き換えた“小王的一台电脑出了毛病”“这台车的一个轮胎破了”や、“有”を削除した“小王一台电脑出了毛病”“这台车一个轮胎破了”に変換可能である。そしてこのことは、“有”は既に“虚化”して命題の意味を担う動詞ではなくなっており、むしろ、新たな談話実体 (discourse entity) を導入する“存在算子” (存在量子) となっていることを意味するのだという。簡潔にまとめると、(13)において“有”の賓語はいずれも数量詞を伴った不定の表現であり本来新情報を担うべき要素であるが、存在量子“有”によってそれが存在量子⁵⁾されることにより“次話題”(S1 [S2 P]) という構造を持つ主述述語文のS2)の位置に現れ得るようになる、というのがこの主張の要点である。

ここで(12)に目を移すと、ちょうど(13)と同様の状況にあることに気付く。そこで、小論は前段の主張を受け入れ、“有”の典型的な動詞としてのステイタスに疑問がある(12)を議論対象であるV1+N+V2から排除することにする⁶⁾。(12)は一見(9)(10)と類似しているが、実際にはまったく別の構造を持つ文であると考えられる。

以上、本節ではV1+N+V2のV1が“有”からなる例がV1+[N+V2]に該当するということを確認した。次節では、V1がそれ以外の動詞からなる例を取り上げる。

3. V1がその他の動詞である例

3-1. “缺”

“有”以外でV1+[N+V2]のV1として現れる動詞のひとつとして“缺”がある。“缺”(V1)+[N+V2]は概ね「V2するべきNを欠く」「V2するためのNがない」という意味を表す。

- (14) a. 洪庄塌陷区的一位农民说,“过去地多缺饭吃,如今没地吃鱼米”。〔洪庄の陥没地帯のある農家は「昔は土地がいっぱいあっても食う飯に困ってたのに、今は土地がなくても米やら魚やら食ってるね」と話す。〕(『人民日报』2002年11月5日)
- b. 曹雪芹一想自己正缺钱买纸墨,就同意了。〔曹雪芹はちょうど紙や墨を買う金がないのに気づいて、すぐさま同意した。〕(百度贴吧「“黛玉”名字的由来 曹雪芹的传说」)

類義語である“缺乏”および“缺少”にも同様の例がある。

- (15) a. 不过作为上赛季冠军，莫尔德本赛季似乎成了众矢之的，而球队毕竟年轻，明显缺乏办法来排遣压力。〔しかし昨シーズンの王者としてモルデは今シーズン各チームの攻撃の矢面に立たされているようだが、やはりチームが若くてプレッシャーを解消する術が明らかに欠けている。〕（盘球网「072 卫冕冠军客战乏力一分难求」）
- b. 孙高金认为企业现在面临资金短缺、人才短缺的问题，对于企业来讲属于正常现象，只有有活力的企业，有前景的企业，才会觉得缺少资金去发展，缺少人才去创新。〔現在資金不足や人材不足に悩むのは企業にとって正常な現象であり、活力がある企業や前途のある企業でなければ、成長に向けた資金が足りないとか、イノベーションに必要な人材が足りないなどと思うはずがない、と孫高金は考える。〕（广东在线「孙高金走进华商论见传授电商平台搭建秘籍」）

これらは意味的に“有”（V1）+N+V2の否定、すなわち“没（有）”（V1）+N+V2の場合と同義である。そして、やはり“没（有）”の場合と同様に「V2の遂行にNの存在が不可欠である」という含みがあり、にもかかわらずそのNの存在を否定しているため、V2の動作行為は必然的に非現実のものでしかあり得ない。したがって、これらは“没（有）”のケースと同じ理由によりV1+ [N+V2] に該当すると判断して差支えないと考えられる。

3-2. “需要” “想要”

“需要” および “想要” がV1+ [N+V2] のV1に立つ例も複数見受けられる。

- (16) a. 颜宁拿出刀子：“这还是需要刀子来切吧。”〔顔寧はナイフを取り出して言った。「これは切るためにナイフが必要でしょう。」〕（寻香踪『梦入芙蓉浦』）
- b. 这时，我——活到最狂妄的年龄上忽地残废了双腿——正需要一个地方去面对人生的一个大转折，而地坛就是这么一个地方，“像是上帝的苦心安排”。〔そのころ私は——最もいい気になっていた年頃に両足が不具になってしまったのだが——人生の一大転機と向き合うための場所がちょうど必要だった。地壇がまさにそうした場所で、「まるで神様の計らいのようだった。」〕（朱伟「生命的启示」）
- c. 对于这些女人，我还是少接触为妙，总想要一个办法来掩饰我的身份。〔こういう女とは関わらないのがいいので、やはり自分の身分を隠す方法が欲しかった。〕（果芭『都市狼王』）
- d. 你看中国的房子现在也卖不出去了，难道中国人真的是不想要房子住吗？〔今や中国の住宅も売れなくなっていますが、まさか中国人は住む家が本当に欲しくなくなったとでも言うんですか？〕（真话-网易「给国企领导“放点血”平民愤」）

上で見た“有”や“缺”の場合と同様に、これらの例にも「V2の遂行にNの存在が不可欠である」という含みがある。そして、“需要”と“想要”は「Nが存在するのが望ましいがNが存在しない」ということを含意する点において共通する。Nが存在しない以上V2を遂行することは不可能である。よってV2はここでも非現実に残らざるを得ず、“有”や“缺”の場合と同様にV1+[N+V2]と認定するのが妥当である。

3-3. 喪失を表す動詞

これまでに挙げたもの以外の動詞がV1+[N+V2]のV1に立つ例には以下のようなものがある。

- (17) a. 同学们能在课堂上感受老师的授课能力，更不应该放弃机会去体验老师的学术能力。
[学生諸君は教室で先生の授業を進行する能力を感じ取ることができるでしょうが、先生の学術上の能力を感じ取るチャンスはなおのこと逃すべきではありません。] (复旦大学管理学院)
- b. 所以，很多人放弃努力改善自己的姿势、表情，也不磨练自己的内在，而是靠一身名牌让自己看起来像是“有气质的女人”。[そのため、多くの人が自分の姿勢や表情を改める努力を放棄し、自分の内面を磨くこともせず、体じゅうブランド物だらけにして自分を「上品な女性」に見せかけようとしているのです。] (房产信媒体资讯网「修炼美好的姿态胜过修饰精致的容颜」)
- c. 我们前往韩国留学可以品尝的美食很多，随着啤酒炸鸡的出现，越来越多的人更加的向往品尝韩国美食，那么去韩国留学的你怎么能错过机会品尝当地最正宗的各色美食呢。[韓国に留学すれば色々なグルメが味わえます。ビールにフライドチキンという組み合わせが流行りだしたのに伴い、韓国グルメに憧れる人がますます増えています。韓国留学に行く以上、現地ですこよりも本格的な各種グルメを味わうチャンスを逃すわけにはいきません。] (51offer 留学信息「韩国留学不可错过当地最正宗的美食」)
- d. 是否老是因忙碌而错过时间去甩掉手臂上的赘肉呢，不要紧，现在来支招介绍简单高效的细臂动作，你现在都可以以身试验，举起你的手开始动起来吧！[いつも忙しくて腕の贅肉を落とす時間が取れませんか？大丈夫、これから簡単に効率的なスリミング法を紹介するので早速実際に試してみましょ。手を挙げて動かしてください！] (PCLADY「简单高效的细臂操 让手臂狂细」)
- e. 虽然说癫痫病比较难控制，但是还是可以治好的，所以广大患者不应该那么快失去信心治疗。[てんかんはなかなか手強いですが、それでも治すことはできますから、患者のみなさんは治療に対してそんなにすぐに自信を失くすべきではありません。] (「杭州癫痫病医院排名第一是哪家」)

- f. 我们青年一代是国家的未来，然而西方某些国家不希望我们这一代成长起来。他们用他们的方式，拼了命地抹共产主义的黑，在这位“美人”脸上缠上一层一层的面纱，企图把“美女”变为“木乃伊”，让我们失去兴趣去了解她。〔青年である我々の世代は国家の未来であるが、西欧の一部の国家は我々の成長を望まないのだ。彼らは彼らなりの方法を用い、共産主義の顔に泥を塗るべく必死になり、この「美女」の顔に何枚ものベールをかぶせて「美女」を「ミイラ」に変え、彼女について理解しようという興味を我々から消し去ろうと企んでいる。〕（江秉鸿「网络治理、我们到底缺少了什么？」）
- g. 当我们失去理由来解释为什么金融市场可以与我们为敌的时候，我们自然会联想到阴谋理论。〔我々は、なぜ金融市場が自分と敵対し得るか説明する理由を失ったとき、自ずと陰謀論に思い至る。〕（张凯「崩溃的帝国——催化世界经济权力交接的新进程」）
- h. 有没有曾经发觉，当你失去勇气坚持梦想的时候，总有那么几次回忆让你重新支撑起那个梦想。〔夢を持ち続ける勇気を失ったとき、そうしたいいくつかの思い出がその夢を再び抱けるように助けてくれる、そんな経験はないだろうか。〕（刘俏汝「梦想不会碎」）

これらの例において用いられたV1には、いずれも何かを喪失するという意味が含まれる。“失去”は言うに及ばず、“放弃”は自らの意思で何かが失われるよう仕向けることを、また“错过”は適当な機会を失うことをそれぞれ意味する。V1+N+V2全体では概ね「V2するためのNを失う」という意味を表す。一方、ここでも「V2の遂行にNの存在が不可欠である」という含みがあり、「Nを失ってなおもV2する」という事態は起こり得ない。V2がここで表すのは、Nが失われたことで遂行不可能となった非現実のものでしかあり得ず、やはりV1+[N+V2]と捉えるのが妥当であると考えられる。

4. 考察

ここで、今回見つかったV1+[N+V2]の例を振り返っておく。

- ① V1が“有”：有饭吃
- ② V1が“缺”：缺饭吃
- ③ V1が“需要”“想要”：需要刀子切
- ④ V1が喪失を表す動詞：放弃机会体验

これらが相互にいかなる関係にあるかという点について考察する。まず、①と②の関係につ

いて見ると、これらは意味的にちょうど互いに対義語の関係にあると考えることができる。すなわち“缺”は意味的に“没有”と等価である。次に③であるが、これも3-2で述べたように何か「ない」状況の一類型であると考えることが可能である。このように、「有」と「無」という、いわば正反対の2つの意味を表すのにV1+[N+V2]という同一の形式が用いられているのである。

では、残る④はどのように位置づけられるであろうか。V1の語彙的アスペクトに着目すると、①～③はいずれも静的な状態を表すのに対し、④は動的な変化を表す。まずこの1点において両者の間に線引きがなされる。次に、④内部について見ると、次のようにV1に対義語(「喪失」とは逆に「獲得」を表す動詞)を用いたカウンターパートをV1+N+V2という形式の中に見出すことができる例がある。

- (18) a. 错过机会品尝美食
b. 把握机会品尝美食

ここで、(18b)がV1+[N+V2]に該当すると仮定する。すると、これは「グルメを味わうチャンスをつかむ」という意味になり、(18a)「グルメを味わうチャンスを逃す」とは概ね正反対の意味になる。

ここまでの議論より、次の仮説が成り立つ。

- (19) V1+[N+V2]は、V1が状態動詞の場合「有」と「無」、変化動詞の場合「獲得」と「喪失」というそれぞれ対照的な2つの意味を担い得る。

同一の形式が対照的な2つの意味を担うというのは、一般に可能なことであろうか。ここで想起されるのが、以下に示すような二重目的語構文の多義性である。

- (20) a. 刚才老李送我一本书。〔さっき李くんは私に本を1冊くれた。〕(張伯江1999:177)
b. 他偷了东家一头牛。〔彼は主人から牛を1頭盗んだ。〕(同181)

中国語の二重目的語構文(A+V+B+C)は、(20a)のように「AがBにCを与える」という意味で用いられる一方、(20b)のように「AがBからCを奪う」という極めて対照的な意味でも用いられ得る。張伯江1999は、(20a)のような例においてCが事物そのものを指すのに対し、(20b)のような例はメトニミーであり、Cによって「Cの損失」という事象全体が示されている、という解釈を提示している。この指摘は、同一の形式が対照的な2つの意味を担うという現象がV1+[N+V2]のみに属するのではなく、さまざまな構造に共通するより一般的な現象であるということを示唆しており、大変興味深い。

ただし、(18b) を V1+ [N+V2] と断定することは今回見送った。今回 V1+ [N+V2] と判定した例は、“有”を除いて V1がいずれも Nの「無」あるいは「喪失」を表すため、必然的に V2が非現実となり判定に誤解が生じ得ない例のみに限られる。しかし、V1が「有」あるいは「獲得」を表す場合は Nが存在するため、V2が非現実となるのは必然とは言えず、実際に V2が現実に行なわれたと解釈される例も存在する⁷⁾。

- (21) 她们还把握机会品尝了越南当地的小吃，春卷、甘蔗虾、河粉汤、潜艇三明治等都成了五脏庙的战利品喔。〔ふたりはまたチャンスを見つけてベトナム現地のスナックを楽しみ、春卷、チャオトム、フォー、そしてバインミーが戦利品としてお腹の中に収まった。〕(東方娱乐)

また、実際の用例に接する際には、V2が現実か非現実かの判定が困難な場合が少なくないという方法上の問題もある。次の V1は「獲得」を表すが、V2は現実であろうか、それとも非現実であろうか。

- (22) 所以下次看到有标榜“蓝带主厨”的餐厅，记得把握机会去品尝看看哦！〔だから、次に「コルドンブルー」を掲げたレストランを見かけたら、必ずチャンスを見逃さずトライしてくださいね！/トライするチャンスを見逃さないでくださいね！〕(Otto2 艺术美学)

このように、V2のみならず V1も未実現・非現実であるような文脈では、(22)において2通りの日本語訳が可能なことからも窺えるように、N+V2が後置修飾構造に該当するかどうか判定が困難なことが少なくない。V2の非現実性が、V1+ [N+V2] という構造によるものなのか、それともその他の語句（ここでは“记得”“去”“看看”など）ないし文脈全体によってもたらされたものなのか、断定するのが困難なためである。以上の理由により、「獲得」の例を今回 V1+ [N+V2] の実例として取り上げるのは見送った。より洗練された研究方法の開拓が求められる。

【注】

- 1) ここでは、V1、V2およびNのいずれも単独の動詞や名詞のみならず、付加成分の伴った動詞フレーズないし名詞フレーズをも含むものとする。
- 2) 伊藤2015では、小論で取り上げるのとは異なる種類の V1+N+V2を扱っている。
- 3) 以下、〔 〕で示した日本語訳はすべて引用者（伊藤）による。
- 4) 後置修飾「構造」としたが、いわば便宜上のラベルであり、これが主述構造や動賓構造、また特に連動構造とそれぞれ排他的なものとして対立するか否か、という議論にはここでは立ち入らない。

- 5) 存在量化とは、存在量子「 \exists 」を用いて「 $\exists x$ 」と表記し、ある条件を満たす x が少なくともひとつ存在すると示すことである。ここでは、「有」が名詞句に前置されることによりその名詞句の指示対象が（不特定ではあるが必ず）存在することが示される」ということを指して言っているものと思われる。存在さえ確定すれば、指示対象が既知の個体に特定されていなくとも主題たり得るというわけである。
- 6) (12) のような存在量化の例の特殊性は、日本語訳からも窺われる。(12) “有一个弟弟被特务杀了” は、前から「弟がひとりいてスパイに殺された」と訳しても、後ろから「スパイに殺された弟がひとりいる」と訳しても、意味の差はほとんど感じられない。一方、(9a) “有办法办这件事” は、前から「方法があって（あるので）このことをやる」と訳した場合と、後ろから「このことをやる方法がある」と訳した場合で、既に見た(2c) “偷油吃”（「油を盗んで食べる」と「食べるための油を盗む」）の場合と同様意味に大きな違いが生じる。
- 7) “有” についてはV1が現実である例を(12) で見た。結果的に(12) はV1+N+V2から排除されたが、「獲得」を表す(21) をV1+N+V2に含めた場合も、(12) をV1+N+V2に含めた場合と同様の問題を提起する。

【参考文献】

- 荒川清秀 2003. 『一步すすんだ中国語文法』。東京：大修館書店。
- 伊藤大輔 2015. 「V1+N+V2の低位分類—修飾構造・動賓構造と連動構造の境界—」、『中国語教育』第13号：75-95頁。
- 高増霞 2006. 『現代汉语连动式的语法化视角』。北京：中国档案出版社。
- 王力 1985/2014. 『中国现代语法』。北京：中华书局。
- 杨成凯 2000. 「连动式研究」、中国语文杂志社编『语法研究和探索（九）』：106-121頁。北京：商务印书馆。
- 袁毓林・李湘・曹宏・王健 2009. 「“有”字句的情景语义分析」、『世界汉语教学』2009年第3期：291-307頁。
- 张伯江 1999. 「现代汉语的双及物结构式」、『中国语文』1999年第3期：175-184頁。
- 2000. 「汉语连动式的及物性解释」、中国语文杂志社编『语法研究和探索（九）』：129-141頁。北京：商务印书馆。
- 朱德熙 1982. 『语法讲义』。北京：商务印书馆。杉村博文・木村英樹訳1995. 『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』。東京：白帝社。
- 邹韶华・张俊平 2000. 「试论动词连用的中心」、中国语文杂志社编『语法研究和探索（九）』：122-128頁。北京：商务印书馆。
- Li, C. N. and S. A. Thompson. 1981. *Mandarin Chinese — A Functional Reference Grammar*. Berkeley: University of California Press.
- Lyons, J. 1977. *Semantics I*. Cambridge: Cambridge University Press.

【用例出典】（2015年9月30日閲覧）

- (14a) : <http://rmrbw.net/simple/index.php?t1303988.html>
- (14b) : <http://tieba.baidu.com/p/30469073>
- (15a) : <http://new.panqiu.com/NewsInfo/NewsDetails/5903.html>
- (15b) : <http://www.gdzxw.net/201508/2018429.html>
- (16a) : <http://m.800book.net/book/7887/2589820.html>
- (16b) : http://www.pep.com.cn/rjwk/cxyuwen/028/dsxz/201107/t20110714_1056170.htm
- (16c) : <http://www.123yq.com/read/34/34755/6241684.shtml>

- (16d) : <http://zhenhua.163.com/15/0506/15/AOUNFB8C0004662R.html>
(17a) : <http://www.fdsf.fudan.edu.cn/UgEdu/ugedu1393503550807>
(17b) : <http://fun.ianjia.com/essay/1028.html>
(17c) : http://www.51offer.com/xinxi/html/2015/live_0720/16844.html
(17d) : <http://fitness.pclady.com.cn/sx/arm/0908/429959.html>
(17e) : <http://www.veizan.com/zj/402.html>
(17f) : <http://theory.people.com.cn/n/2014/1028/c386964-25921807.html>
(17g) : <http://yuedu.qidezao.com/book/6100/5.html>
(17h) : <http://www.126doc.com/p-42592341.html>
(21) : <http://msd.eastday.com/epublish/gb/paper191/20010104/class019100004/hwz220772.htm>
(22) : <http://www.otto2.com.cn/event>

(平成27年11月4日受理)